

② インターネットを利用した学習支援

ー 学習活動における個別支援をインターネット上でおこなう ー

栃木県立学悠館高等学校 教諭 松本一則

1 本校におけるeラーニング

(1) ねらい

本校のeラーニングは、通信制課程において「学習活動における個別支援をインターネット上でおこなう」ことを目的としており、実践的なねらいとして次の3つを上げている。

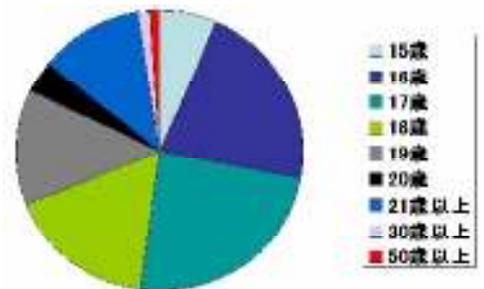
- ア 自己学習力の育成（自学自習の支援）
- イ 多様な学習形態の提供
- ウ 科目・教科を超えて、レポートなどに関する情報を公開・交換し、学習指導の充実を図る。

(2) 背景

通信制においては、面接指導日の登校や報告課題の作成に困難を抱える生徒が多いため、「報告課題作成 の支援を行うことで、学習方法を身に付けさせたい」と考えている。また、年齢や通学距離も様々であり、学習の継続を高め、学習意欲を高めるためには、個別支援は重要であるとも言える。

その手段としてeラーニングを活用することで、分かりやすい授業、生徒自身が自分のペースで学べる 学習形態を提供することが可能になると考えている。いつでも学習できる環境を提供することで、理解する まで繰り返し見ることができ、さらに予習にも復習にも利用することができる。

在学生年齢(全年次)

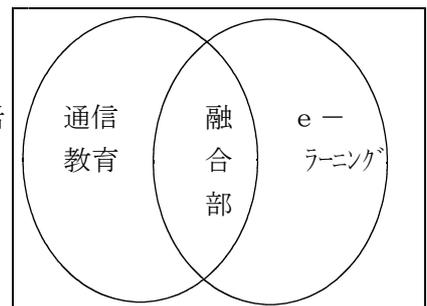


(3) 通信教育とeラーニングの融合

通信教育は学校での学習（面接指導）と自宅での学習（報告課題）が柱であるため、学校と自宅を結ぶ遠隔指導が必要となる。

eラーニングもインターネットの利用を考えた場合、遠隔的な活用が可能である。

この遠隔にある学校と自宅を結ぶことを考えた場合に、通信教育とeラーニングには共通する部分も多く存在するため、融合することで個別支援が容易に行える環境を整えられると思われる。



(4) eラーニングで実践しているもの

現在、次のものをeラーニングとして実践している。

- ア. 全教科の年間学習予定表の公開（面接指導と報告課題の年間予定表）
- イ. 全教科の報告課題の提供（ダウンロード可）
- ウ. 一部科目の報告課題の解説（学習の方法や解法のヒント）
- エ. 一部科目の動画教材（面接指導に関する支援教材）
- オ. リンク集（有効なホームページへのリンク）

なお、ホームページには学習者のみがログインできるよう、IDを割り振っている。

2 本校のeラーニングに対する考え方

通信制ではeラーニングに対して次のような姿勢で臨んでいる。

生徒に対しては、

- ①報告課題の合格などのように課題をクリアできれば、利用しなくてもよい。
- ②メディアだけを頼らず、あくまで教師と生徒の関係を大切にしたい。そのため、登校して学習する機会を重視し、eラーニングを出席としてカウントするのは好ましくない。
- ③学習の形態として紙教材（教科書など）だけで分かればそれでよく、メディア教材を利用してさらに理解を深めることができれば利用してほしい。レポートを紙でやりとりして添削を加えるという手書きの暖かさも大切にしたい。

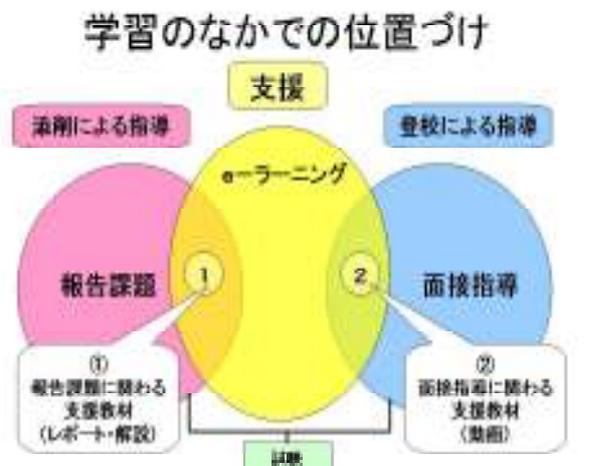
教員側としては、

- ①ホームページで利用できる機能でどのような授業・学習形態を提供できるかに力点を置きたい。技術的に難しいことに苦心するのではなく、生徒にとっての学習効果を重視したい。
- ②コンテンツ作成に対する負担は、今あるものから、または今あるものをベースに作成するとすれば、心理的コストも少ないもので済む。コンテンツ作成は、最初の作成に手間はかかるが、作成してしまえば訂正を加えていくだけで済む。
- ③最大のメリットは、レポートなどに関する科目担当者が持つ情報を、広く他の担当者と共有することで充実した学習指導が展開できる。

全科目で足並みをそろえ、コンテンツを充実させているという取り組みを行っている。

3 eラーニングの学習のなかでの位置づけ

従来からの添削指導や面接指導は、今でも学習指導の柱であり、計画的・体系的に実施するカリキュラムそのものである。よって評価もするが、「学習支援」を従前より充実させたいと考えていた。私たちが実施している「学習支援」としては、個別の電話による相談や、毎月2回程度学校でおこなうレポート作成支援日（学習相談日）、併修制度の活用や高卒程度認定試験などに関する単位修得のための支援、そしてeラーニングがある。これらは計画的・体系的におこなうというよりは、生徒の生活・学習状況に応じて随時・適宜おこなうものであり評価の対象とはしない。eラーニングには、右図のように、①報告課題の作成を支援する教材（レポート・レポートの解説）と、②面接指導に関わる支援教材（動画）があり、「添削による指導」と「登校による指導」に加えて、このeラーニングが生徒の学習活動を支援すると考えている。ここからレポートの作成や登校に困難を持つ生徒へ、個別的に支援をしていこうと考えている。



4 取り組み

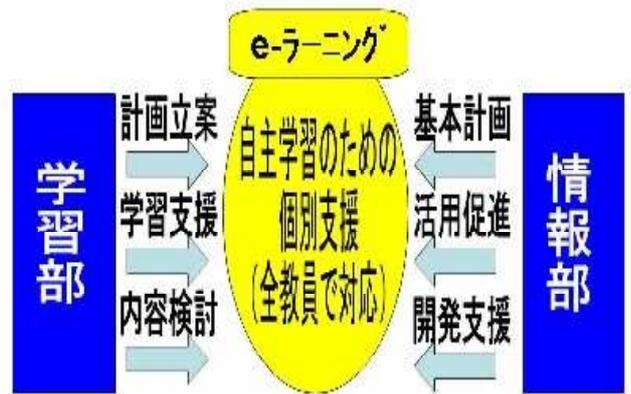
(1) 経過

- ① 新設校として開校したため、eラーニングとしての情報がほとんどない状況であり、開講初年度の平成17年度は情報収集と活動計画に費やした。
- ② 2年目の平成18年度に、公開可能なもの、提供可能なものから実践が始まった。
学習予定表や報告課題の公開は全科目で実践でき、半数を超える科目での報告課題解説の公開が行えた。動画教材では主要教科のいくつかで教材提供が行えた。
- ③ 平成19年度の3年目を迎えて、教材の充実を目指している。

(2) 組織

学習活動の一部であり、生徒の個別支援を目指す意味合いから、通信制に関わる全教員で取り組むこととなり、学習部と情報部が役割を分担して推進している。

主に学習部が支援方法の計画を立案し、実践するための技術的支援や開発支援を情報部が行っている。



(3) 生徒への活用促進

平成18年度に実践が始まってから、生徒の活用を促進するためと周知徹底を図るために、面接指導日の時間内で「e-ラーニング説明講習会」を開いてきた。生徒全員を対象とし、IDの使い方から公開された教材の使用法までを説明する機会とした。

さらに、各科目でも面接指導の機会に活用を呼びかけたり、実際に指導場面で利用することで、生徒の意識を高める工夫をしている。

5 使用法の画面

学習支援メニュー画面

学習支援への 人目の訪問者です

各教科・科目毎に学習支援を行います。
 なお、この支援ページは学悠館高等学校に著作権があります。
 無断での改変や持ち出しは禁止させていただきます。

学習に役立つ映像教材です。先生が作成しています。(④へ)

昨年度の報告課題を見ることができます。(①へ)

本年度の報告課題と学習のための解説が見られます。(②へ)

面接指導日の時間割を見ることができます。(③へ)

面接指導日における時間割											
前期					↓ 面接指導日をクリックすると詳細が見られます。 ↓						
月/日	曜	項目	月/日	曜	項目	月/日	曜	項目	月/日	曜	項目
4/22	日	面接指導①	4/29	日	面接指導②	5/6	日	面接指導③	5/20	日	面接指導④
4/24	火		5/1	火		5/8	火		5/22	火	
5/27	日	面接指導⑤	6/3	日	面接指導⑥	6/17	日	面接指導⑦	7/1	日	面接指導⑧
5/29	火		6/5	火		6/19	火		7/3	火	

①「昨年度報告課題集」

昨年度に作成され、学習に使用された「報告課題」を全科目で見られます。

平成18年度報告課題集														
国語	国語表現Ⅰ	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	国語総合	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
		7回目	8回目	9回目	10回目	11回目	12回目		7回目	8回目	9回目	10回目	11回目	12回目
	現代文	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	古典Ⅰ	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
		7回目	8回目	9回目	10回目	11回目	12回目		7回目	8回目	9回目	10回目	11回目	12回目
地歴	世界史A	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	世界史B	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
		7回目	8回目	9回目	10回目	11回目	12回目		7回目	8回目	9回目	10回目	11回目	12回目
	日本史B	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目	地理B	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	6回目
		7回目	8回目	9回目	10回目	11回目	12回目		7回目	8回目	9回目	10回目	11回目	12回目

②本年度の「学習予定表」「報告課題」「報告課題の解説」

公民

公民における各科目の学習支援です。

現代社会 年間学習予定表						
前期	1回目課題 ↓ 解説	2回目課題 ↓ 解説	3回目課題 ↓ 解説	後期	4回目課題 ↓ 解説	5回目課題 ↓ 解説
					6回目課題 ↓ 解説	

倫理 年間学習予定表						
前期	1回目課題 ↓ 解説	2回目課題 ↓ 解説	3回目課題 ↓ 解説	後期	4回目課題 ↓ 解説	5回目課題 ↓ 解説
					6回目課題 ↓ 解説	

政治経済 年間学習予定表						
前期	1回目課題 ↓ 解説	2回目課題 ↓ 解説	3回目課題 ↓ 解説	後期	4回目課題 ↓ 解説	5回目課題 ↓ 解説
					6回目課題 ↓ 解説	

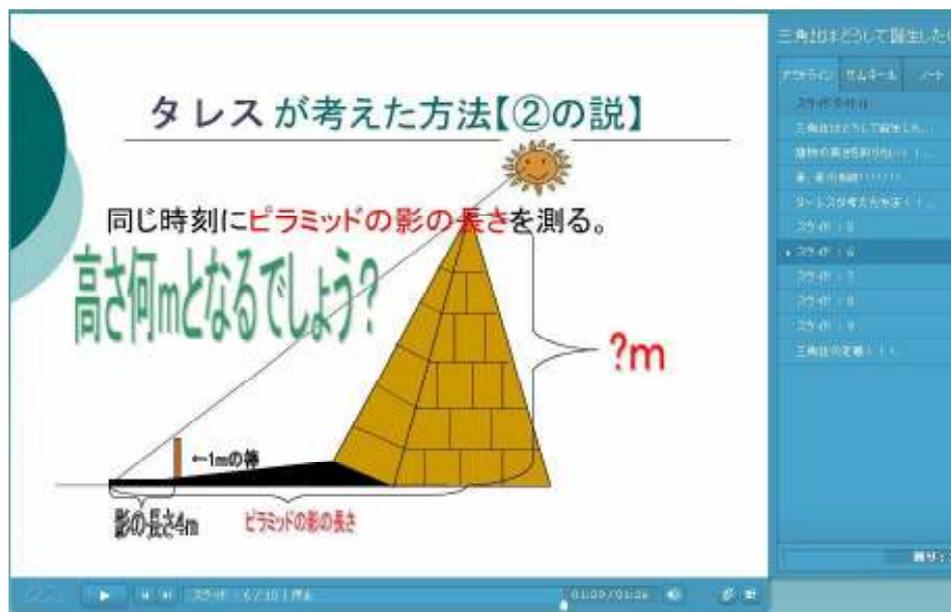
③「面接指導日の時間割」

4月22日(日)								4月24日(火)							
年次	19(17年次)		18(18年次)		17(19年次)		16(14年次)		年次	19(17年)	18(18年)	17(19年)	16(14年)		
HR	S	T	S	T	S	T	S・T・U	HR	S	T	S	T	S	T	U
1	体育Ⅰ		現代文	情報A			政治経済 3・4・5・6	1	近代文学	英語Ⅰ			古典		
2	英語Ⅰ	理科総合B	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ		数学Ⅰ	地理Ⅱ	1・2・3・4	化学Ⅰ	数学Ⅰ	情報A	生物Ⅰ	化学Ⅰ			
3	数学Ⅰ	国語総合	英語総合	現代文	地理Ⅱ	生物Ⅰ	世界史Ⅱ	古典	国語総合	現代文	地理Ⅱ	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ			
4	近代文学	英語Ⅰ	英語Ⅱ	英語総合	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ		化学Ⅰ	世界史Ⅱ	理科総合B	英語総合	数学Ⅰ	政治経済			
昼休み								昼休み							
5	国語総合	近代文学	体育Ⅱ		生物Ⅰ	数学Ⅰ	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ	5	体育Ⅰ	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ	体育Ⅱ	1・2・3・4			
6	理科総合B	数学Ⅰ	情報A	英語Ⅰ	体育Ⅱ		古典	政治経済	英語Ⅰ	体育Ⅱ	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ	世界史Ⅱ			
S・H・R・清掃								S・H・R・清掃							

④「映像コンテンツ」

報告課題作成・面接指導復習などに役立つ映像教材です。

(Breezeというソフトを使用しています。)



6 成果

「学習支援」という目的から、学習効果としての結果が数値で表されてはいない。ホームページ内のカウントからかなりの生徒が活用していることは確認できるが、学習成績への反映や単位修得率向上への影響などは推察するしかない。また、活用に関するアンケート等の調査も今後行う予定であり、現在のところ生徒の活用意識等の調査は進んでいない状況である。

そんな中で、実際に活用している生徒への聞き取り調査を行うと、「復習や予習を進めやすくなった」「反復して学習できるようになった」「自学自習がやりやすくなった」などという意見が聞かれるようになり、教材の提供が遅れると、生徒から提供を促されるなどの効果は出てきている。

今後、詳しい調査を行うことで、より実態に即した教材の提供が行えると思われる。

7 課題

学悠館高校としてどのようにeラーニングを進めてゆくのか考察し、教材をどのように作成してゆくのかの研究が優先していたため、必ずしも教材が充実している状況ではない。また、報告課題の公開などは随時行わなければならないため、ホームページ内の更新の手間などが課題として上がってくる。

さらに、生徒の多様化の中で、登校が困難な生徒への対応や課題作成が困難である生徒へ、より充実した対応の必要性が考えられる。面接指導出席の代替措置や、報告課題の電子媒体の送信法などは、これからの課題として考えてゆかなくてはならない課題である。

より生徒の現状に合わせられるeラーニングを考えてゆかなくてはならないであろう。